

2018年度総会議事録

日 時：2018年5月17日（木）13時30分～15時30分
 場 所：つくば国際会議場大ホール（茨城県つくば市）
 出席理事：岩崎俊樹，瀬上哲秀，石原幸司，近藤 豊，
 佐藤 薫，塩谷雅人，竹見哲也，仲江川敏之，
 中村 尚，平松信昭，廣岡俊彦，藤部文昭，
 堀之内 武，余田成男，渡部雅浩，
 以上15名（理事現在数20名）

出席監事：鈴木 靖，以上1名

参加者数：個人会員の会場出席者105名，総会参加票
 による出席者1,509名，合計1,614名。（個人会員現
 在総数3,276名（2018年4月10日現在））

決議の要件：社員総会の決議は，議案5を除く議案に
 ついては，定款第17条第1項により総社員の議決権
 の3分の1以上を有する社員が出席し，出席社員の
 議決権の過半数をもって行う。議案5については，
 定款第17条2項により総社員の半数以上であって，
 総社員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもつ
 て行う。

議 事

1. 開会

石原理事より出席状況と決議の要件を満たしている
 ことが報告され，総会の開会が宣言された。

2. 議長選出

総会議長に限 健一会員（気象研究所）を選出した。

3. 理事長挨拶

今年の春季大会は，限 健一大会委員長はじめ，
 気象研究所の皆様のご尽力により，開催されている。
 改めて心より御礼申し上げます。

会場では熱心な討議が続いている。学会に参加さ
 れている会員の皆様に，心より感謝申し上げます。

気象学会をめぐる最近の動きを簡単に紹介する。
 財政問題については，およそ1年をかけて検討をし
 てきた。すでにご案内の通り，財政健全化の計画案
 を提示した。経費の節減と会費の見直しが骨子とな
 っている。大変申し訳ないが，ご負担の増額をお
 願いする次第である。

赤字の最大の要因は，最大時に4,000人を超えて
 いた個人会員数が3,200人台にまで減少したこと
 である。理由はいろいろ考えられ，対策も検討して
 いるが，なかなか歯止めをかけることができない。多

くの会員の理解と賛同を得て学問を発展させること
 は大変重要であり，会員増を目指して，魅力ある学
 会にしていく必要がある。特に，会員の増減の鍵と
 なる，若者の加入，気象に関連する他学会との連
 携，気象関連事業者への働きかけなどを強めたいと
 考えている。

さて，今大会からいくつか新しい試みを導入し
 た。大学院生の優れた研究発表には松野賞を贈呈す
 る。若手を育成するため大学院生を顕彰すること
 は，以前から気象学会の懸案事項となっていた。坪
 木委員長はじめ松野賞候補者推薦委員会の皆様
 には，大変ご尽力していただき，実施することとな
 った。今回は初めての施行で，学会発表を直接評価
 する手続きはなかなか大変である。審査方法等につ
 いては今後とも改善していきたいと考えている。ご
 意見等あればお知らせいただきたい。

小倉義光・正子基金の運用益の活用法を検討して
 いる。今大会より，基金を利用してジュニアセッ
 ションの旅費の一部を補助することにした。気象に
 興味のある高校生に対し，気象学会への参加の便宜
 を図ることで，気象学への興味を一層深めていた
 きたいというのがそのねらいである。また，秋季大
 会の開催時には，海外から著名な気象学者を講師と
 して招き，小倉特別講義（Distinguished Ogura
 Lectures）を実施することにした。今年の秋季大会
 では，ニューヨーク州立大学の Robert Fovell 先生
 に“How ice crystals steer typhoons?”というタ
 イトルで話をしていただく。

さて，今期の評議員会のテーマは，「地球観測の
 強化に向けて日本気象学会は何をなすべきか」であ
 る。2回にわたり有識者の皆様にご意見をいただいた。
 学術委員会が中心となり，学会に対する提言と
 して取りまとめる予定である。

気象予測の改善のために，また，気候監視や地球
 環境の監視の強化のために，観測システムの高度化
 は，大変重要な課題である。しかし，気象観測衛星
 に象徴されるように，地球観測システムは，開発と
 整備に莫大な経費がかかるものが多くなっている。
 昨今の予算事情で実現できることはわずかである。
 限られた予算で，よりよいシステムを作るために
 は，まず優れた計画を立てることが必要である。観

測システムの開発者と観測データの利用者の間で、また、研究者と行政担当者間で、計画段階から強く連携する必要がある。また、新しい観測システムの導入には、社会の理解が不可欠である。活用方法について、社会に情報発信し、説明を尽くす必要がある。

今日では、データ同化など、観測データの複合的な利用が常態化している。有効な観測システムを構築するには、それぞれの観測について、費用対効果を、事前によく理解する必要がある。今後、観測システム実験や観測システムシミュレーション実験など、それぞれの観測データの有効性を客観的に評価するための研究を強化する必要がある。

大型計画実現のためには、学会も利用者の代表として、時にはプライオリティーをつけて、関係機関に強く要求することが大切である。気象、気候、環境など、観測データへのニーズが多様化する中で、プライオリティーをつけることは容易なことではないが、コンセンサスを作りながら、プライオリティーを考えることも、大型計画を早期に実現するためには、大事なことだと考える。

観測後のデータのとり扱いにも配慮が必要である。観測データは社会全体の財産であり、利用しやすい形でアーカイブする必要がある。データの公開や流通は重要だが、骨の折れる仕事であり、コストもかかる。これをどのように支えていくか、コミュニティ全体で考える必要がある。

以上、評議員会での話題をいくつか簡単にご紹介した。冒頭でも述べた通り、観測システムをめぐる様々な議論を整理し、報告書を取りまとめる。

明日のシンポジウムでは、防災のための観測システムが議論される。私自身大変楽しみにしている。会員の皆様におかれましても、次世代の観測システムについて、大いに議論していただきたい。

4. 表彰

(1) 日本気象学会賞

岩崎理事長から受賞者に賞状並びに賞金・メダルが授与された。受賞者と、受賞対象となった業績は以下の通り。

重 尚一（京都大学大学院理学研究科）

衛星観測に基づく潜熱及び降水量推定手法の開発とアジアモンスーン域での地形性降雨特性の解明

(2) 藤原賞

岩崎理事長から受賞者に賞状並びに賞金・メダルが授与された。受賞者と、受賞対象となった業績は以下の通り。

内野 修（国立環境研究所）

ライダーの技術開発と大気微量成分の観測的研究への応用及び発展に尽くした功績

佐藤 薫（東京大学大学院理学系研究科）

南極昭和基地レーダーPANSY計画の立案・推進と中層大気力学の発展に尽くした功績

(3) 岸保・立平賞

岩崎理事長から受賞者に賞状並びに賞金・メダルが授与された。受賞者と、受賞対象となった業績は以下の通り。

太田琢磨（気象庁予報部予報課）

牧原康隆（(一財)気象業務支援センター）

浸水害及び洪水害の軽減に向けた技術開発と危険度分布情報の社会への提供に関わる功績

(4) 気象集誌論文賞

気象集誌編集委員会委員の竹見理事が選定理由を説明した。受賞者と、受賞対象となった論文タイトルは以下の通り。

Ryuji YOSHIDA, Yoshiaki MIYAMOTO, Hirofumi TOMITA, Yoshiyuki KAJIKAWA: "The Effect of Water Vapor on Tropical Cyclone Genesis: A Numerical Experiment of a Non-Developing Disturbance Observed in PALAU2010"

(5) SOLA 論文賞

SOLA 編集委員会委員長の竹見理事が選定理由を説明した。受賞者と、受賞対象となった論文タイトルは以下の通り。

Hiroaki MIURA:

"Coupling the Hexagonal B1-grid and B2-grid to Avoid Computational Mode Problem of the Hexagonal ZM-Grid"

Daisuke GOTO, Shinji MORIMOTO, Shuji AOKI, Satoshi SUGAWARA, Shigeyuki ISHIDOYA, Yoichi INAI, Sakae TOYODA, Hideyuki HONDA, Gen HASHIDA, Takashi YAMANOUCI, and Takakiyo NAKAZAWA: "Vertical Profiles and Temporal Variations of Greenhouse Gases in the Stratosphere over Syowa Station, Antarctica"

5. 2018年度総会議案審議

(1) 提案説明

議案1：2017年度事業報告

石原理事から、研究会及び講演会等の開催と普及・啓発活動、機関誌等の刊行、研究業績の表彰、会員の異動状況、役員の選任及び解任、会議等の開催の事業報告があった。

議案2：2017年度決算報告

石原理事から、公益法人会計基準に従った決算報告があった。

議案3：2017年度監査報告

鈴木監事から、帳簿類の管理、収支、事業執行状況と学会の運営状況等に関する監査結果が報告された。

2017年度の活動について、大会・研究会の開催と学術誌の出版などの研究活動、サイエンスカフェなどの一般向け教育・啓発活動が例年通り活発に行われていること、秋季大会の初の4日間開催等、新たな活動について高い評価を受けた。一方、厳しい財政状況については、対処案の議論については評価されたものの、今後の見通しの厳しさは変わっておらず、引き続き、学会の在り方や事業の見直しの必要性が指摘された。

議案4：公益社団法人日本気象学会細則の一部改正について

瀬上副理事長から、公益社団法人日本気象学会細則第54条の規定により、会費の年額および会費区分の変更のため、公益社団法人日本気象学会細則を一部改正することについて説明があった。

議案5：公益社団法人日本気象学会定款の一部改正について

瀬上副理事長から、経費の削減を目的に、理事会の決議等を電磁的方法で実施できるよう、定款を一部改正することについて説明があった。

議案6：第39期名誉会員の推薦について

名誉会員推薦委員会委員長の近藤理事から、1名の候補者及び推薦理由の説明があった。

議案7：第40期役員の選任について

岩崎理事長から、第40期役員候補者選挙における当選者並びに理事会からの推薦による理事選任候補者について説明があった。候補者毎の

議案は次の通り。

・役員候補者選挙において当選した理事選任候補者

議案7-1 竹見 哲也

議案7-2 佐藤 正樹

議案7-3 佐藤 薫

議案7-4 早坂 忠裕

議案7-5 渡部 雅浩

議案7-6 廣岡 俊彦

議案7-7 榎本 剛

議案7-8 余田 成男

議案7-9 中村 尚

議案7-10 岩崎 俊樹

議案7-11 堀之内 武

議案7-12 小池 真

議案7-13 塩谷 雅人

議案7-14 青柳 暁典

議案7-15 平松 信昭

議案7-16 仲江川敏之

議案7-17 坪木 和久

・理事会からの推薦による理事選任候補者（細則第22条第1項第7号関連）

議案7-18 新保 明彦

議案7-19 氏家 将志

議案7-20 瀬上 哲秀

(2) 質疑応答

会費の見直しに対し、過去の経緯を見ると、必ずしも会員の減少に伴い赤字会計が続いているわけではなく、見直しは不要ではないか等の質問や反対意見があった。これらに対して、瀬上副理事長から、近年は印刷経費に伴う支出が大きくなっているなど、今後楽観的な要素は期待できないことから、値上げに関してはご理解いただきたい旨の回答があった。

6. 採択

採決の結果、議案1, 2, 3, 4, 6, 7については、以下のとおり定款第17条第1項により賛成多数で承認された。議案5については、以下のとおり総社員の議決権の3分の2以上の賛成を得られなかったため、定款第17条第2項により承認されなかった。

有効総会参加票1,428票のうち、理事会案賛成351票、議案別意思表示137票、議長委任939票及び個人会員委任1票で、議長委任票及び個人会員委任票は全て理事会案に賛成であった。

- 議案 1 : 賛成1,528, 反対1, 保留4
 議案 2 : 賛成1,528, 反対1, 保留4
 議案 3 : 賛成1,527, 反対1, 保留5
 議案 4 : 賛成1,431, 反対66, 保留36
 議案 5 : 賛成1,520, 反対7, 保留6
 議案 6 : 賛成1,526, 反対4, 保留3
 議案7-1 : 賛成1,528, 反対1, 保留4
 議案7-2 : 賛成1,525, 反対4, 保留4
 議案7-3 : 賛成1,528, 反対2, 保留3
 議案7-4 : 賛成1,528, 反対1, 保留4
 議案7-5 : 賛成1,527, 反対1, 保留5
 議案7-6 : 賛成1,529, 反対1, 保留3
 議案7-7 : 賛成1,529, 反対1, 保留3
 議案7-8 : 賛成1,530, 反対0, 保留3
 議案7-9 : 賛成1,526, 反対3, 保留4
 議案7-10 : 賛成1,528, 反対2, 保留3
 議案7-11 : 賛成1,527, 反対1, 保留5
 議案7-12 : 賛成1,527, 反対2, 保留4
 議案7-13 : 賛成1,529, 反対1, 保留3
 議案7-14 : 賛成1,527, 反対2, 保留4
 議案7-15 : 賛成1,520, 反対7, 保留6
 議案7-16 : 賛成1,527, 反対1, 保留5
 議案7-17 : 賛成1,529, 反対1, 保留3
 議案7-18 : 賛成1,526, 反対2, 保留5
 議案7-19 : 賛成1,526, 反対2, 保留5
 議案7-20 : 賛成1,524, 反対4, 保留5

7. 2018年度総会報告事項

(1) 内容説明

報告 1 : 2018年度事業計画

石原理事から、従来の事業を継続して実施することに加えて、新たな「科学研究補助金（国際情報発信強化）」に伴う気象集誌と SOLA と

の連携強化、松野賞の新設、小倉義光・正子基金に基づく「小倉レクチャー」の実行などの説明があった。

報告 2 : 2018年度収支予算

石原理事から、公益法人会計基準及び2016年度の実績に従って予算を組んだこと、受取会費を公益目的事業会計と法人会計に2017年度と同じ割合で配分したことなどの説明があった。

(2) 質疑応答

今後の大きな方向性をきちんと示していく必要があるとの意見や、気象庁職員における会員減少に対する意見や質問があった。これらに対して、岩崎理事長及び瀬上副理事長から、今後も学会員へのサービス向上などを目指していきたいとの回答があった。

8. 議事録署名人の指名

議事録署名人に堤之智会員（気象研究所）と直江寛明会員（気象研究所）を指名したところ、異議なく承認された。

9. 議長解任

隈議長により、総会の議事運営に関する出席者の協力に感謝する旨の挨拶があり、議長は解任された。

10. 閉会

石原理事により総会の閉会が宣言された。

以上の議事録の通り相違ありません。

平成30年 6月13日

総会議長 隈 健 一
 出席者代表 堤 之 智
 出席者代表 直 江 寛 明